
僕の手は痴漢の手

鷹野 秀也

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕の手は痴漢の手

【Nコード】

N0993BA

【作者名】

鷹野 秀也

【あらすじ】

その日も、いつもと同じ時間に、いつも乗っている電車の三両目の、いつもと同じ場所に立っていた。何も変わらない一日が始まるはずだったのに、今日この日、僕は痴漢になってしまった。

始まりは終わり（前書き）

この物語には変態成分が多量に含まれております。
どうかご注意くださいお読みください。

始まりは終わり

時刻は午前七時二十三分。

僕がいつも登校するのに利用している電車は、今朝も時間ピッタリにホームに流れてきた。

当然の事ながら、この時間に空いている席などあるはずもなく、乗車率百パーセント超えの車内に自分の身体を強引に割り込ませる人と人が互いを押し合い、自分の腕を一本動かすことも出来ない車内。

いつもと同じだ。何ひとつ変わらない朝。

昨日も今朝と同じだったし、昨日の昨日も。さらに昨日の昨日の昨日まで、今朝と何も変わっていない。

いや、唯一変わっている所といえば、僕の隣に立っているのが昨日はおじさんで、今日は同じ学校の制服を着た女子だという所くらいか。

変わっている所なんてそれくらいのものだ。

どうせ今日も、他の所は何ひとつ変わらない。

目的の駅に着いたら電車を降りて登校し、退屈な授業を放課後まで受け、今と同じように電車に乗って帰宅する。

高校に入学してから三ヶ月。もう少しで夏休みというこの時期に、僕は早くも高校生活に飽き始めていた。

何も変わらない日常というものは、それはそれで貴重なものだけど、やはりつまらないと感じてしまう。

何か刺激が欲しいわけじゃない。ただ、何かが少しでも変わって欲しいだけで、特別な刺激なんて求めてはいない。

そう、僕は特別な刺激なんて求めてはいなかった。

しかし、そんなことを本人が望んでいようと、望んでまいと、神様はそんなことを気にしない。気まぐれでワガママなのだ。

今日この日、僕の日常は大きく変わった。

これまで歩いてきた道も、これから歩くはずだったであろう道も、大きな音を立てて崩れ落ちた。

たった一人の、それも僕の隣に立っていた女子の一言によって。

「この人、痴漢ですっ！　いま私のお尻を触りましたぁ！」

「……………えっ？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0993ba/>

僕の手は痴漢の手

2012年1月2日06時45分発行